

問診票 2 (赤ちゃんが欲しいと受診した方)

1, 御名前 (姓) _____ (名) _____

2, 生年月日・年齢 昭和・平成 _____年 _____月 _____日 _____歳

3, 結婚 西暦 _____年 _____月 _____日 _____歳

結婚予定 西暦 _____年頃

同居期間 有 西暦 _____年頃～

離婚暦 有 (西暦 _____年～ _____年 結婚期間) ・ 無

4, 結婚後～現在まで _____年 _____ヶ月

避妊期間 _____年 _____ヶ月 (避妊はピル・コンドーム使用・膈外射精)

避妊しなくても、積極的に挙児希望なし又はセックスレス

_____年 _____ヶ月

積極的挙児希望期間 _____年 _____ヶ月

5, 妊娠・分娩暦 (現パートナーとの間)

妊娠 _____回 流産 _____回 中絶 ()

分娩 _____回 西暦 _____年 _____月 正常 ・ 異常

西暦 _____年 _____月 正常 ・ 異常

西暦 _____年 _____月 正常 ・ 異常

西暦 _____年 _____月 正常 ・ 異常

6, 妊娠・分娩暦 (パートナー別)

妊娠 _____回 流産 _____回 中絶 ()

分娩 _____回 西暦 _____年 _____月 正常 ・ 異常

西暦 _____年 _____月 正常 ・ 異常

西暦 _____年 _____月 正常 ・ 異常

西暦 _____年 _____月 正常 ・ 異常

7, 不妊検査、治療暦

今まで不妊に関する検査、治療をしたことがありますか。 ①ある ②ない

① と答えた方 検査しているものにチェックをしてください。

- ・ホルモン検査 ・卵管造影検査 ・フーナー検査 (性交後検査)
 - ・黄体機能検査 ・精液検査 ・不育症検査
- (検査結果のコピー 有 ・ 無)

① と答えた方 治療内容にチェックしてください

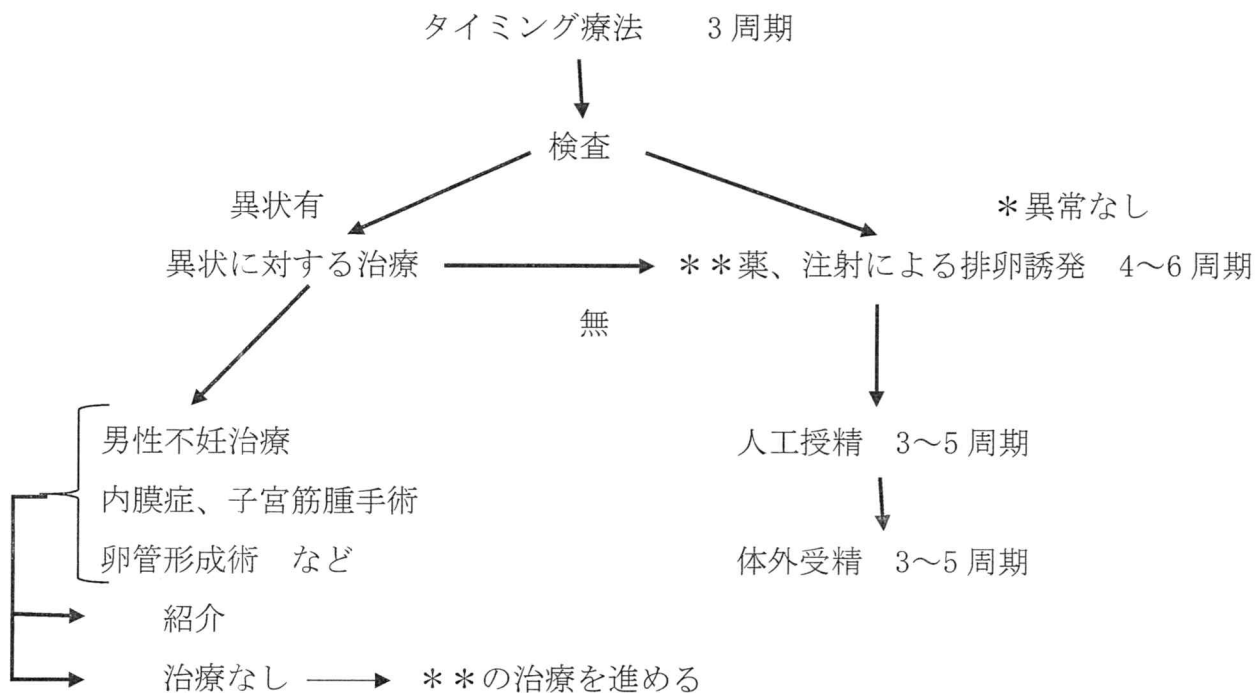
- | | | | |
|---------|---------|----------------|----|
| タイミング療法 | 自然周期 | () | 周期 |
| | 内服 | () | 周期 |
| | 注射 | () | 周期 |
| 人工授精 | 自然周期 | () | 周期 |
| | 内服 | () | 周期 |
| | 注射 | () | 周期 |
| 体外受精 | 採卵 | () | 回 |
| | (うち顕微授精 | () | 回) |
| | 移植 | () | 回 |

8, 当院での治療をお受けになるにあたり希望はありますか。

- ① タイミング療法のみ希望 (2,000円 保険)
- ② 検査をできるだけ早く希望 (25,000円～ 保険+自費)
- ③ 内服治療、注射による排卵誘発法など希望

}	排卵誘発剤 700円～
	自己注射 10000円～
	通院注射 700円～
- ④ ①-③済みの為人工授精希望 (5,500円)
- ⑤ 体外受精希望
- ⑥ ④-⑤は希望しない (当分希望しない ・ 全く希望しない)

9. 当院での治療の流れ



原則として年齢、治療期間、AMHの値などによって治療間隔を決めていきます。

治療を希望しない場合（タイミング療法以外の）もタイミング療法のみも出来ます。
ご希望の範囲内ですすすめます。

40歳以上の方は1つ1つの治療期間を短縮します。

AHM（抗ミュラー管ホルモン）が年齢より著しく低い人も治療期間の短縮をすすめます。

*検査で異常なしと判断された場合に考えられる病態です。

- ・黄体化未破裂卵胞（LUF…排卵していない状態です）
- ・軽度の子宮内膜症（生理痛が強い人が疑われます）
- ・軽度の卵管周期ゆ着（子宮卵管造影検査で疑われます）
- ・卵管の輸送障害（卵管のせん毛の動きが悪いともいわれます）
- ・着床障害
- ・精子の受精障害
- ・卵子の活性化障害

などがあります。体外受精で原因がわかることも多いです。

不妊症の原因検索としての検査をうけましょう

- 基礎体温測定
 排卵や黄体機能を評価します。基礎体温が全てではありません。体調によっても変化があり、ガタガタしているからといって不安にならないようにしましょう。
- 超音波検査
 子宮筋腫や卵巣嚢腫等器質的病変の有無をチェックします。卵胞発育モニタリングには欠かせません。
- 内分泌検査
 黄体化ホルモン(LH)、卵胞刺激ホルモン(FSH)、エストラジオール(E2)、乳汁分泌ホルモン(PRL)、プロゲステロン(P4)、テストステロン(T)測定します。P4は黄体期中期、他は月経周期3~7日目に出来ます。甲状腺機能検査も試行します。
- クラミジア抗体検査
又は抗原検査
 クラミジア抗体検査(IgG、IgA)の検査をすすめます。特にIgG抗体は既往感染があると陽性が持続し、卵管因子の原因にもなります。治療歴のないIgG陽性例やIgA陽性例は配偶者とともに治療しましょう
- 卵管疎通性検査
 子宮卵管造影検査を施行します。
- 精子検査
 男性因子の評価に必要で、治療に先立って実施します。
- 頸管粘液検査
 精液頸管粘液適合検査(フーナーテスト、性交後検査)です。超音波検査やホルモン検査より特定された至適検査日に実施します。

